



平成29年度 果樹情報 第18号

(平成30年3月15日)

果樹類の発芽予測

福島県農林水産部農業振興課



- 1 気象概況（3月第1～第2半旬：果樹研究所）
3月の平均気温は1半旬が6.0℃で平年より2.4℃高く、2半旬が3.5℃で平年並でした。
この期間の降水量は55.5mmで平年の258%でした。
- 2 発芽予測（果樹研究所における3月12日時点での予測）
今後の気温が平年並に経過した場合、もも「あかつき」の発芽は3月28日頃で平年より3日遅く、なし「幸水」の発芽は4月4日頃で平年より2日遅く、りんご「ふじ」の発芽は3月28日頃で平年並と予測されます。
なお、この時期の生育は直前の気温の影響が大きいため、今後の気温の推移により大きく変動する可能性があるので注意しましょう。

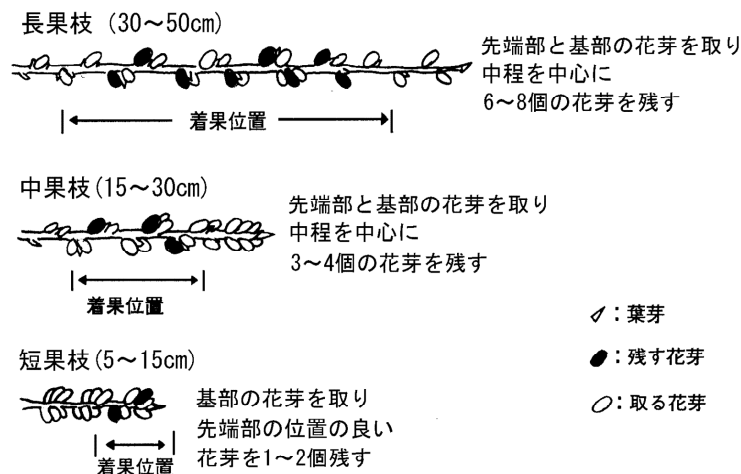
表1 発芽予測日 [予測方法：発育速度（DVR）モデルによる発育予測]

	発芽日		今後の気温経過		
	昨年	平年	平年並	2℃高い	2℃低い
あかつき	3月29日	3月25日	3月28日	3月25日	3月31日
幸水	4月5日	4月2日	4月4日	3月31日	4月9日
ふじ	4月2日	3月28日	3月28日	3月24日	4月1日

注) 発芽日の平年は1986～2015年の平均値。

気象庁[営農活動に役立つ気象情報] <http://www.jma.go.jp/jma/kishou/nougyou/nougyou.html>

- 3 栽培上の留意点
 - (1) 管理作業の計画的実施
発芽予測日や気象予報を考慮し、せん定、せん定枝処理、誘引及び休眠期防除などの管理作業が遅れないように注意しましょう。
 - (2) ももの摘らい
摘らい作業の適期は3月上旬から発芽直前までで、発芽期以降は摘らいの際に葉芽を傷めやすい上に花らいが離脱しにくくなり、能率が極端に低下します。摘らい作業は時間を要するので計画的に実施しましょう。



なお、摘らい作業の省力化を目的として、高圧動力噴霧機と摘らい用ノズルによる水圧摘らいを実施する場合は、果面障害の発生を最小限に抑えるため、発芽期前後または開花直前～開花期頃を実施しましょう（発芽後5～15日（開花前6～17日）頃は果面障害が発生しやすいので注意します）。

4 病害虫防除上の留意点

発芽前の防除は時期が遅れないように注意し、温暖無風の日を選んで確実に実施しましょう。

(1) りんご

近年、腐らん病の発生が多くなっています。休眠期の防除を徹底するとともに、発病部は削り取るかせん除しましょう。

輪紋病の発生が多い園等で枝幹にいぼ病斑がみられる場合は防除部を削り取りましょう。

うどんこ病によるボケ芽等はせん定時に除去し、第一次伝染源の密度低下を図りましょう。

リンゴハダニの越冬卵量が多い園では、休眠期の防除を実施しましょう。

(2) もも

縮葉病やハダニ類、カイガラムシ類等に対する休眠期の防除を実施しましょう。また、コスカシバの発生が多い園では、縮葉病防除後に樹幹部および主枝を対象として防除薬剤を手散布しましょう。

(3) なし

黒星病およびハダニ類に対しては、発芽10日前までに防除を実施しましょう。また、黒星病の枝病斑は伝染源にはなりません、枝病斑がみられる枝は芽基部感染のおそれがあるので、枝病斑の有無を十分に確認しながらせん定を実施しましょう。

黒斑病の越冬伝染源（枝病斑、ボケ芽）は、せん定時に取り除きましょう。

(4) ぶどう

晩腐病防除のため、休眠期の防除を徹底するとともに、病原菌が越冬している可能性が高い巻きひげや前年の房の取り残し、結果母枝の枯死部は丁寧に除去しましょう。

病害虫の発生予察情報・防除情報

病害虫防除所のホームページに掲載していますので、活用してください。

URL: <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/>

農薬散布は、農薬の使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょう。

発行：福島県農林水産部農業振興課 技術革新支援担当 TEL 024(521)7344

(以下のURLより他の農業技術情報等をご覧ください。)

URL: <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/>